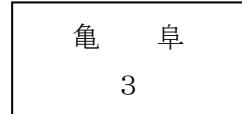


す も う 大 会 競 技 規 定

1 チーム編成

- (1) 選手は、男子及び中・低学年の女子とする。
選手は、1チーム3名(補欠は1名までとする)。なお、けが等で出場できない者が
出ても2名以上の選手がいれば出場できる。参加人数が多い場合は、複数チーム
参加できる。
個人戦出場の場合は1名からとする。ただし、同学年3名以上の選手がいる場合
は団体戦に出場となる。団体戦出場者も個人戦に出場できる
- (2) 部門を高学年(6・5年)、中学年(4・3年)、低学年(2・1年)とする。
ただし、下の学年選手が上の学年で出場は可とする。
- (3) 先鋒・中堅・大将を決め、一番勝負とする。
- (4) 選手の交替は、申込書に記載した者とする。
- (5) 選手の出場順番は、先鋒・中堅・大将の順とする。
- (6) 補欠の選手は、全試合を通して3人のうち1人の所になら何回でも出場できる。
ただし、正選手がけが等で出場できない場合は、補欠の選手はその選手の代りとして
後の試合に出場できる。服装はトレパン・トレシャツとする。(まわし・帯などは禁
ずる。)
- (7) 選手は、校区名と出場順番を明示したゼッケンを胸につける。

(例)



※ 胸につける

- (8) ゼッケンはトレシャツに縫いつける。安全ピン等危険なものでつけない。審判が
危険であると判断した場合出場できない。(ゲームベスト(ビブス)は不可)
- (9) すもう大会の競技は素足で行う。靴等は禁止する。ただし足を負傷したとき、ま
たは負傷している子どもは、監督が審判に申し出て、審判が了承した場合のみ通学靴
(足を踏んでも危険でない靴)をはいて競技に参加することができる。

2 試合の方法

- (1) 団体戦と個人戦を行う。ただし、個人戦の出場選手が少ない場合は、個人戦を実
施しない場合がある。
- (2) 高・中・低学年別に1チームが3試合行い、勝数の多いチーム、次に勝点の多い
チームよりベスト8を決める。同じ場合は、抽選とする。
※ 出場チームは、予選終了後ベスト8の発表が終わるまで、試合に負けていても選
手を帰さないこと。
- (3) ベスト8によるトーナメントを行う。ただし、トーナメントで勝敗が決しても、
大将戦まで行う。

(4) 3位決定戦はしない。

(5) 個人戦の試合方法は、出場選手の人数によって実行委員会で決定する。

3 組み合わせ抽選

組み合わせ抽選は、事前に行う。

4 競技の方法

(1) 「おし」・「つき」・「寄り」によって試合する。

(2) 土俵の正面から見て、左を東、右を西、正面の反対を裏正面とする。

(3) 土俵の中心より 35cm の所に 70cm (巾 5cm) の平行線を引き、これを仕切線とする。土俵の大きさは 455cm とする。

(4) 土俵溜りには、出場順に整列する。このとき競技があたっているチームと、次の競技があたるチームが入場し、主審の指示により立礼後着席する。

(5) 呼び出された者は、俵を踏まないで内側に起立する。そして主審の合図でお互いに礼をする。

(6) お互い中央に 2 歩半進んで、そんきよの姿勢をする。胸をはり呼吸を整えて相手をしっかりと見る。

(7) 主審の「かまえ」の声で仕切線に手をおろし、相手と呼吸をそろえて仕切る。

(8) 主審の「はっけよい」で立ち会う。やむを得ないときは 1 回だけ「まったく」を認める。2 度目には必ず立ち会う。(立ち会わないときは、負けとする。)

(9) 勝負が決まつたらお互いに東西に別れ、土俵のきわにもどり立礼してから土俵を出る。勝った者はその場にそんきよして主審から勝ち名のりを受ける。

(10) 取り組んで 3 分しても、勝負が決しないときは取り直しとする。

(11) 土俵下で次の番を待つ者は、決して足を投げ出したり体を横にしたり、その場を離れたりしてはならない。

(12) 進行係が 2 回呼び出して応じないときは負けとする。

(13) 対戦相手チームが欠場の場合は不戦勝とし、勝ち点は「5」とする。対戦の組替えはしない。

5 勝負の判定

(1) 土俵内で足裏以外が早く砂についたときは負けとする。

(2) 土俵の外側を境として相手より早く出たものは負けとする。

(3) かばい手、飛び足、送り足は負けではない。

(4) 主審のかけ声で立ち合わなかった者は負けとする。

(5) 禁手を使ったときは、中止して取り直す。更に 2 度禁手を使ったときは、負けとする。

(6) 負傷等により競技続行が不可能と判定されたときは負けとする。

(7) 相手に胸元より上に抱き上げられ、危険と思われるときは負けとする。

6 審判

- (1) 審判は、審判長、主審、副審である。
- (2) 審判はその競技の審判に限り、その競技以外の審判が競技の勝敗について申し立てをしてはならない。
- (3) 危険と思われる場合が生じたら、直ちに競技を中止して取り直しをさせる。

7 禁手

- | | | | |
|------------------------|------------------|-------------|----------|
| (1) ける | (2) なぐる | (3) 平手打ち | (4) 指とり |
| (5) 首かかえ | (6) 手刀打ち | (7) 拳でつく | (8) 外がけ |
| (9) のどわ | (10) 内がけ | (11) 合掌 | (12) 腰なげ |
| (13) さばおり | (14) かわづがけ | (15) かもの入れ首 | |
| (16) 相手の水月より下に頭がはいったとき | (17) 衣服をつかむ | | |
| <u>(18) 足取り</u> | (19) その他危険と思われる技 | | |

※応援の注意

- 「すもうは、礼に始まり、礼に終わる」と言われている。
- 応援も、節度ある温かい声援を行うこと。
- 審判に対する異議申立ては、全面禁止とする。
- ※つめを切っておくこと。
- ※各チームで事前に柔軟体操をしておくこと。

すもう大会 土俵配置図

